

はじめに 「日常記憶地図 皆生編」について

この冊子は2022年に鳥取県米子市の皆生で行ったプロジェクト「日常記憶地図 皆生編」の成果として作成しました。参加したのは皆生に暮らすなど日常的にこの場所に関わりをもってきた10代から80代までの計13名。

8月に行ったワークショップでは比較的年代の近い方が一緒にテーブルを囲み、それぞれが幼少期から成人前までに過ごした遊び場や通っていた道などを地図上に印を付け、その場所に紐づいた記憶を相互に語り、相手の言葉からさらに引き出される記憶も含めて記録していく、というワークを行いました。

異なる世代であっても同じ場所で同じような体験をしていたり、見聞きしたものが少しずつ重なったりと、それぞれの身体感覚をともなう記憶のなかに、ひとつひとつ共通項を見つけていく機会となりました。成人する前の比較的フラットな感覚から捉えた記憶の数々は、参加者の社会的な役割を自然に解き、それぞれが改めて出会う様は印象深いものでした。

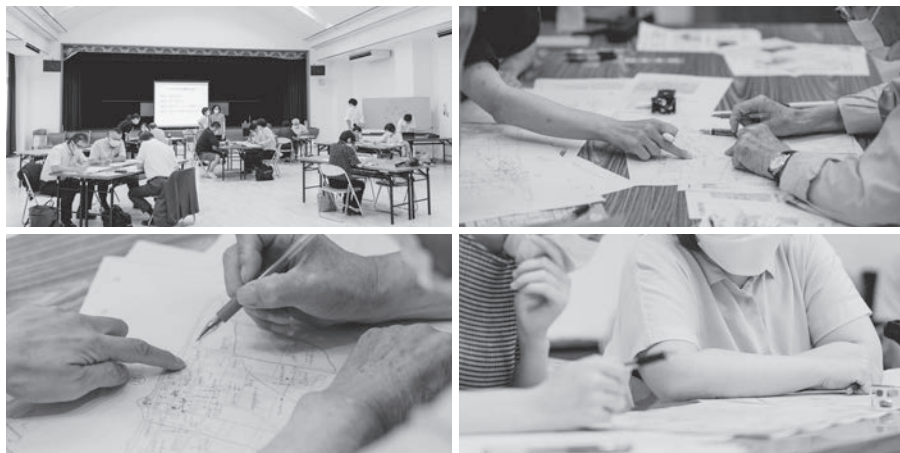
そして最もたくさんの記憶が集まった皆生の海は、どの世代にとっても日常の一刻一刻を見届けてきた存在であり、これからも続いていく日々の結節点であることが改めて確認された場であったと思います。

今回作成した冊子がひとつのきっかけとなり、手に取ってくださった方々も含め、わたしたちの日常の記憶が幾重にも交わり、立体的に示されることで、これまでとは異なる地点から皆生を捉える機会となれば幸いです。

※可能な範囲で確認していますが、記憶の語りは必ずしも事実であるとは限らないこと、ご了承ください。

「日常記憶地図」とは

個人のある時期の「よく行く場所/道」を地図上になぞることで、普段意識することのない「場所の記憶」や風景を思い出す方法です。土地の特性や歴史を見出したり、親や祖父母、パートナーの記憶や風景を共有することもできます。2013年にサトウアヤコが開発しました。展覧会や地域のプロジェクトに展開されています。



撮影：村上伸明 / 2022年8月2日、米子市観光センター

<https://my-lifemap.net/>

皆生について

皆生は、鳥取県西部のまち米子市の北側にあり、日野川の河口、弓ヶ浜半島の付け根に位置します。地名は天正年間(1573～1592年)にこの地にあったという「海池」と呼ばれる大きな池が由来とされ、1867(慶応3)年には、地元では古くから通俗的に用いられていた「皆生」が正式な地名となりました。沿岸部で温泉が発見されたのは明治のころで、浜辺で漁をしていた地元の漁師が、海から泡が吹き出ているのを見つけたといひます。それまで日本海側に面したエリアは広大な松林でしたが、大正、昭和期の都市開発によって整備が進められ、次第に温泉街としての顔を持つようになりました。



日常記憶地図

1940 - 1950年代	4
義昭さん・順一さんの皆生	
市営住宅、競馬場跡、田んぼ道、八百屋、松林、海岸、温泉クラブ、駄菓子屋、皆生温泉、運動場、バスの車庫、海、日野川	
1950 - 1960年代	14
アキオさん・定夫さんの皆生	
防空壕、路地、日野川、海、畑、松林、車庫、浜、野口商店、射的屋、皆生道路、歯医者、マルワプール、バンガロー、丸山商店、運動場、競馬場跡	
1960年代	22
チエさんの皆生	
皆生温泉、海、ヘルスランド、旅館、喫茶店	
1960 - 1980年代	24
カズタカさん・康朗さん・アキオさんの皆生	
ヘルスランド、卓球場、味園、海、喫茶「どろんこ」	
1980 - 2000年代	28
カズヒロさん・ユウさん・ヨネダさんの皆生	
川、海、ブイレックス、駄菓子屋、野口商店、431号沿い、銭湯、防空壕、皆生温泉、藤田商店、書店、公園、イオン、小学校、海岸	
2000 - 2010年代	36
ユリさんの皆生	
通学路、公民館、海、OUランド、野口商店	
2010 - 2020年代	38
シホさんの皆生	
OUランド、汐の湯、海浜公園、イオン、大山、海	

はじめに / 「日常記憶地図」とは	1
皆生について	2
参考文献 / クレジット	40



1940
1950
年代

義昭さん | 1938(昭和13)年生まれ

小学5年生～ / 1948(昭和23)年頃～

小学校1年生の夏休みに朝鮮半島で終戦を迎え、大邱(現:大韓民国東南部の都市)から米子に引き揚げてきた。米子市河崎に住み、米子市立加茂小学校(現在の博愛病院の位置)に通っていた。父親が警察勤務で1951(昭和26)年に皆生の市営住宅に入居し、米子市立第二中学校(二中/現在の米子市立図書館周辺の位置)に通う。

順一さん | 1943(昭和18)年生まれ

5-6歳 / 1948(昭和23)-1949(昭和24)年頃

父親が本家から独立して、3歳ぐらいの頃に皆生温泉に家を買った。

引揚者:第二次世界大戦後、日本の当時の外地や占領地などの国外から帰国してきた人

戦後の住宅不足を解消するため、米子市では1960-70年代に市営住宅が多く建設されている。平屋や2階建ての多い時期であった。

大正末ごろから砂浜で競馬が行われていたが、皆生競馬場は1929(昭和4)年に完成した。1937(昭和12)年頃まで競馬が開催され、戦争で中断、戦後は2回だけ開催された。馬のための温泉も付属していた。義昭さんは1948(昭和23)年に友人の父親に最後の競馬を見に連れていってもらったとのことである。

市営住宅

義昭:皆生温泉4丁目は「弓ヶ浜荘」(旅館)の西側に一つの住宅の塊があるんです。一番古いのが引揚者の住宅だった。最初四軒長屋が4棟できていたんです。それまでは昔の「温泉クラブ」(p.11)の前に3階建てくらい大きい建物があって、1階に引揚者住宅が入ってた。そこから優先して16世帯がここに入ってきた。終戦後すぐの昭和21(1946)年か22(1947)年。その後に二戸建てが何軒か2列くらいできて、更に一戸建てが20何軒かできてきた。この時入ってきた人はほとんど公務員で、学校の先生や警察官や鉄道の人たちだったんです。私の父は警察官だったのでここに取れたんで。

将来人口が増えるから、この地域を切り拓いていこうということで始まったんです。その初期で、引揚者住宅だとか、焼けだされたか転勤して入るところがない人に競馬場(皆生競馬場)の跡地があてがわれた。私は昭和26(1951)年にタイミングよく、皆生や福米(ふくよね)の人と一緒に二中(米子市立第二中学校)に4月から入ることができた。

順一:当時は市営住宅なんて初めてのケースだけ(だから)。やっぱり住まわれてる人たちは、みんな近所で助け合いしながらね。

競馬場跡

順一:ちょうど住宅ができて東側の方に“山”(砂の丘にできた雑木林や松林)を一つ挟んでね、競馬場(皆生競馬場)の跡。ここは“山”でね。今の「天水」(皆生天水グランドホテル)までほとんど“山”。海岸までね、馬場を広くとって、市営住宅の人は跡地で運動会をしたり。一歩外へ出たら松林だもん。その中で狐が出るとか。拓けたところは競馬場だけ。一面草っぱらみたいところだったけん。

義昭:この周りの道路がほぼ200mぐらいの直線距離取れるので、市営住宅の運動会をね。



参考：皆生競馬場 昭和初めごろ

田んぼ道

順一：競馬場の真ん中辺にね、田んぼ道があって、この住宅ができた時点で初めて皆生温泉から出たところはね、バスの停留所なんですよ。今の皆生環状線、新開環状線という道ですけどね。昔の電車の車庫があって、後にバスの車庫になった。この道が大きかったんだけど、住宅に行く道がなくて田んぼ道を歩いて通っちゃった。住宅の人も歩いて出て、バスに乗って学校や勤めに行かになんない。

義昭：この道はね、参勤交代みたいに各家から一人参加するように言われて。だから子どもが出て来て。最初は人が通ってる間に道ができちゃったんですよ。トラックで土を持ってきてもらって、ずっと流していった。幅が徐々に大きくなったんですよ。

八百屋

義昭：「田村」という八百屋さんがあって。同級生だったから、その家をいったん親戚の人が借りて、僕はそこに高校の時一人で下宿して自炊してた。家族はみんな淀江(旧西伯郡淀江町 / 米子市北東部)の駐在所に引越していったから。お風呂もついてるし。お金はいらないということで寝泊まりしながら手伝いして、八百屋だから全旅館に配達。

松林

義昭：この辺から加茂小学校に通ってる先生もおって、松林の中をよく走って通っていた。松林は1人で歩くのは嫌だった。昼間はいいけど暗いと。

順一：昼でもね、薄暗かった。“山”の中に住んでなった人たちが何人か、自分たちの防空壕を作っておんなった。

当時はもう戦争もないしね、人も通らんしね。狐か狸が出入りするくらいなもんだけん。僕らは入らんだったけんね。今の自衛隊(陸上自衛隊米子駐屯地)や皆生漁港があるところ、ほとんど松林だった。

日野川の方ね。昭和10(1935)年前半の頃に中国で、日華事変(日中戦争)があって、兵隊さんがたくさん負傷されたので、皆生温泉にそういう傷痕軍人(しょうい 怪我をした軍人)さんを収容するために病院ができたの。それが米子国立病院の始まりだけど。道も何もないんで皆生から“山”の中の小さい道を歩いて行きよった。その当時から皆生の住民は「戦争で頑張ってるっちゃった兵隊さんだけん、親切にしてあげにゃいけんぞ」ということで、地域近隣で採れた野菜を持って行ってあげなんもね(あげたもんね)。

義昭：松の木の間なんかを通りながら行ってたから不気味だったのよ。

順一：病院で言ってもね、電気もないし。

*

順一：「つるや」(旅館「皆生 つるや」)の東(大山側)から県道皆生車尾線(県道206号線)、皆生幼稚園まで、昼間でも暗い松林が続いていて、「三国屋」(旅館)の松林に飛行機が隠してあった。5歳から小学校にあがる前まではあったと思う。アメリカに見つからないよう隠したんだと思う。子どもは飛行機の上にあがって遊んだりしていた。前面の窓ガラスの壊れた破片を拾ってきて、木でこすると(アクリル系のガラスの)いい匂いがした。大人は中の部品も持っていった人もいた。

*

順一：松林で渡り鳥を捕るということど。

義昭：あるときから捕ってはいけないうてなったけど。

順一：ペットなんて聞こえがええだけで、ほとんどの人は食用にするためにね、捕ってた。趣味でやる分には、子どもの遊び程度、かわいい小鳥を飼うのが目的だけど、大人がやりなるのは。

義昭：鳥かごもね、手作りでね、それが楽しみ。飼ってた。

順一：飼ってた。だから私達は、使ってもらうために一生懸命捕って、かわいいどころじゃない、金儲けだ。友達に頼まれれば、いいやつ捕っといちゃるけんって。

皆生漁港は皆生温泉地域の西側、自衛隊駐屯地はさらに西側に位置する。

日中戦争の始まった1937(昭和12)年に陸軍の保養所が開設され、1938(昭和13)年に姫路陸軍病院臨時皆生分院が皆生東部の海岸に開設された。戦後は国立病院となり、1971(昭和46)年に移転し米子医療センターとなる。また、多くの傷病者が皆生温泉の各旅館に分宿した。

三柳の飛行場は見通しがよく、攻撃を防ぐため飛行機を松林に隠して修理した。飛行場から皆生通りを押して運んでいた。

参考：藤田収康氏の伝承「皆生温泉ふるさと伝承」

義昭：弓ヶ浜荘(旅館)建設前にはね、松の木がある高さで日当たりも条件がよくてね、弓ヶ浜荘が建つまでは松露^{しょうろ}採り。松茸の香りがするきのこ。

順一：今の五条通りに豆腐屋があっただしょ。角の辺は旅館^{とげつどう}があって、「吐月堂」ってお菓子屋さんがあった。

義昭：皆生のね、唯一のお菓子屋さんで。

順一：和菓子屋さん。近所の人が松露^{しょうろ}をたくさん取ってきたのをね、買い集めて加工して松露饅頭^{しょうろ}にして、各旅館で待ち受けに使ってもらいになった。それで大儲けした。この100年間皆生唯一の地産地消の和菓子だった。いや本当に。

義昭：アルバイトで鉄くず拾うより良くて。雨が降ると、熊手で採って小さいバケツに2杯ぐらいにして売りに歩いた。「専属で持って来るなら、少し高く買ってあげる」って言われて、毎日僕は売ってました。家ではほとんど食べない。吸い物にして、朝出してあげて。

順一：いい香りがしよった。料理にも使いよったよ。今はない。「吐月堂」もう店じまい。

＊

義昭^{しょうろ}：松露の他にボウフウが採れたね。

順一：これも昭和の初め、10年代で日華事変(日中戦争)が起きたときに、兵隊さんが水が悪いけん腸を痛めなあだ。このボウフウの根っこを丸薬にして、送うだ。そのためにこの皆生の浜でボウフウ根採りってのが、学生も出させられた。学徒も出ただーか。とにかく採ってね。食べた。今でも食べますよ。葉先の柔らかい時にね。唐揚げや天ぷらにして。根が薬だ言って。今でも、一部の場所では採れている。

皆生温泉は、大正時代に京都を参考に東から一条、二条、三条と通りを定め、碁盤の目状の温泉街としてつくられた。

学徒動員：戦時中の労働力不足のため、生徒や学生を軍需や農業に従事させること



松林 昭和30~40年代 撮影：遠澤利寛

昭和30年代の藤田商店(p.11)ではボウフウ煎餅や「吐月堂」の饅頭を販売していたようである。
参考：藤田収康氏の伝承「皆生温泉ふるさと伝承」

海岸

義昭：「地引き網の手伝いに来てください」ってね。木の板を叩くんです、カンカンカン叩くんですよ。バケツ持って。今は動力だけど、当時は人間の手でね。獲れた魚の…

順一：あの頃の地引き網は4つか5つぐらい。朝早く網打つと、魚の形した板があって、それをカンカンカン叩きますと、その調子で「どこの網だ」って、部落の人は「鐘になったけんここだぞ、あそこだぞ」って言って。網あげると漁師さんがね、丸い魚を板の上に置いてごしなとった（くださっていた）。手伝った人に来た順番にずっと「取れ」って。魚がもらえる。それを帰って洗って煮てもらって食べようと。

義昭：中学生の頃にね、バケツ2杯くらいサバが獲れたと持って帰ってね。親からね「そんなにサバだけもらってきて、すぐ傷む、どうやって食べるんだ」と。

順一：昭和30年代くらいだったかな、サバがものすごい獲れてね。ものすごい接岸して。たくさん獲れてね。地域の人たちに、米子とかね、南部町（米子市の南側に接する）にも売りに行きよったですよ。何日も何日も大八車（木製の荷車）で。

義昭：境（境港）の方で干拓しだして、だんだんだんだん進んでる間に海の流れが変わってきて。ニッパ（日本パルプ工業）ができてからね、毎日泳いでいた海が茶色くなってね。日本パルプは公害関係で住民からの声に大変苦労していた…今は王子製紙に変わって。同じ海流で廃液を処分しながらやっていくわけだから、だんだんそういう海の流れで、その頃から獲れなくなったと言われるように。

日本パルプ工業は1952（昭和27）年に米子工場を新設、1979（昭和54）年に王子製紙に合併された。



参考：弓ヶ浜のイワシ漁 大正時代

温泉クラブ

順一:住宅にはなかった五右衛門風呂だった。郵便局(現在の皆生郵便局より東に位置)の海側の方に大衆公衆浴場が。

義昭:「温泉クラブ」としてね。毎日行ったもんな。

順一:行ったもんな。冬場、秋とか冬はね、よく行った。夏は海に行って行水なんだけど。子どもだけ走って行って、親は後からついてくるぐらいのことだけでも。



参考:温泉クラブ 撮影年不明

駄菓子屋

順一:皆生にはね、駄菓子と雑貨店と八百屋さんぐらいしかなかったんだけん。そうも3軒。昭和10年代。酒屋も、雑貨屋して酒屋もするだ。丸山さんという家がああだけど、電気製品とかそういうもんも売っちゃった。酒も売っちゃった。ずっと後はだんだん手広げて雑貨もしたった。

*

順一:田村商店という八百屋さんがあって、奥田商店という駄菓子屋さんができて、駄菓子屋さんは「東光園」(旅館)前の道のめのう屋があった隣に「藤田」さんがあって。これが皆生で一番古い駄菓子屋。飴玉とか。釣り道具とか。ここにお婆さんがおりなって、わしをがいに(とても)可愛がってごしなって(くださって)。

義昭:グリコのキャラメルと森永のキャラメルと。グリコは景品がある。カバヤは券を揃えて送るとね、少年少女ブックを送ってきて、僕は全部集めた。『小公子』やらね、世界少年少女ブック。70冊くらいあった。



四条通 1952(昭和27)年

温泉クラブは、1936(昭和11)年より温泉大浴場、食堂、売店、集会場などの総合娯楽センターとして営業。1945(昭和20)年に進駐軍のダンスホールとなり、その後ダンスホールとして営業するが、1950(昭和25)年に温泉クラブとして再開する。

「カバヤ文庫」は、岡山に本社を置くカバヤ食品(株)が、1952(昭和27)年から1954(昭和29)年にかけて毎週のように発行した児童文学シリーズ。10円のキャラメルに入っている文庫券を集めて送ると本がもらえる仕組みだった。

義昭さんは『ロビンソン漂流記(ロビンソンクルーソー)』、『巖窟王(モンテクリストの復讐)』、『レ・ミゼラブル(ああ、無常)』、『アリババと40人の盗賊』、『トム・ソーヤーの冒険』、『ノートルダムde怪人』など男の子向けの本を中心に集めたとのこと。

進駐軍は、1945(昭和20)年10月に鳥取へ約200名、11月に米子へ160名進駐した。

皆生温泉

順一：皆生温泉の花街(色街)っていうのは、戦後の進駐軍がおったときだけ。別に皆生温泉に常駐してるわけじゃない。^{おおしのづ}大篠津(旧西伯郡大篠津村/米子市北西部。境港市に接する)に基地(現：美保航空基地)があったもので、そこから米兵が皆生に来るだ。だけんがいな(すごい)人数じゃないけどね。10人くらいジープに乗ってね、温泉来るだ。それでわしが「ギブミーチューイングガム」ちゅうと、ぱっぱぱっぱ投げてごすだけん。わしは顔役でガキ大将で、家の前出たところでね。(進駐軍が)来る時間ちゃんと見ておって、チョコレートやらばらまいてね。

運動場 / バスの車庫

順一：今の観光センターのところに大きな運動場があった。ここで盆踊りや地区の野球大会。全長300mぐらいのグラウンドがあった。近くには、昭和10年代前半ぐらいまで電車の車庫があって、近くに駐在所があった。この辺はものすごく治安は良かったもので、皆生の住人はここで絆を深めようと。

義昭：皆生代表で野球やりに行ったことある。少年野球大会。毎日夜ここで走っていた。競馬場跡で陸上の練習をしてたり、野球はグローブとバットがいるけど、走るのには何もいらなからとにかく走って。米子市の中学校の400m走のチャンピオンになった。本当は野球の方が好きだったけど(大会に)出たら勝っちゃって。

順一：運動場があって、駐在所があって、電車の車庫があって。車庫は改造して、バスの車庫になったからだね。だけん日の丸バスが一晩泊まって、始発をここから出してって。



日の丸バス 昭和30年代

海 / 日野川 | 愛着のある場所 |

順一:海と川だわい。親子とか兄弟の関係なんてほとんど海とか川とか。一緒に遊んで魚捕ったり。

義昭:日野川に^{うなぎ}鰻捕りは専門になるくらい。蒲焼はうまい。

順一:今でもおるはおるよ。だけど今は、日野川の皆生大橋から海の方が法律で定められた保護区域だけ。ここで草木から生き物1匹でも捕っちゃいけん事になっとるけん。だけん捕るんだがん(んです)。捕ったら警察に捕まることになったけん。我々が子ども頃は、さほどお構いなしだけん。魚捕って遊んでね。大人もそれやあなるし(魚を捕っておられたし)、警察官までするだ。なんで悪いと思わんが。

義昭:毛蟹は捕るわ。

順一:毛蟹は捕るわね。

義昭:海は泳ぐこともできるし。

順一:家族とか友達の関係とか、ほとんどそう、海や川で^{つちか}培った絆を結んじょうだけん。親父と一緒にあそこで泳いだなとか、魚捕りしたなとか、弟連れて日野川でカニ捕って遊んだな、妹に籠持ちさせたな、なんてことない思い出いっぱいある。やっぱり故郷だけん。皆生が一番大事だけんな。



参考:皆生海水浴場 1935(昭和10)年頃

2022年8月2日 聞き手:磯崎
2022年12月29日 聞き手:水田